

資料渉猟余話

その101

医業は言うに及ばず、絵画はじめ文化面に多くの足跡を印した塩澤萬象については、今年度の本紙新春随想に紹介させていただいたので、お目にされた方もおいでと思つう。

この伺い書に年記はないが、萬象が上伊那の俳人たちに招かれた会の懇親、慰勞の席上で倒れ、亡くなったのは昭和七年十月一日であったから、この追悼会も文面から同年、即ち昭和七年と考えてよからう。

その萬象の追悼会を持ちたいという小林郊人の北原痴山あての次のような伺い書がみつかったので紹介する。

たつて、かなり緊張して書かれている。追悼會開催致し度と存じ御指揮を仰ぐ次第に候 足下相談の頃、如何御過候哉 御伺ひ申上候 陳省御案内の如く

蕉忌に当る 午後四時より龍翔寺に於て 式次第は大略左記に決定致し候 式次 一、一同着席(午後四時半乃至五時頃) 一、誦経 焼香 遺族及各代表者 一、献詠朗読 一、故人追憶談 半 声会北原痴山 上柳 外川両先生 松華吟 社中島潮雨 兼題 一、追悼句会 兼題 芒 二句 席題 行く 秋蟬(当日発表) 一、晚餐(サルソバ) 一、記念撮影(都合にて早くする) 一、閉會 午後十時

賛助 懇願申候 式次第は大略左記に決定致し候 式次 一、一同着席(午後四時半乃至五時頃) 一、誦経 焼香 遺族及各代表者 一、献詠朗読 一、故人追憶談 半 声会北原痴山 上柳 外川両先生 松華吟 社中島潮雨 兼題 一、追悼句会 兼題 芒 二句 席題 行く 秋蟬(当日発表) 一、晚餐(サルソバ) 一、記念撮影(都合にて早くする) 一、閉會 午後十時

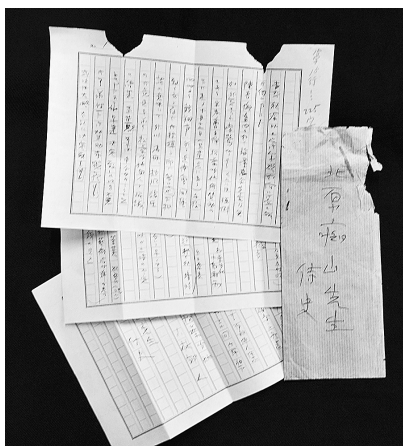
北原痴山あて塩澤萬象追悼會開催について 小林郊人の伺い書

吉澤 健

塩澤萬象先生は突如 逝去せられ 驚仕りと協議の結果 芭蕉候 それに付 恒例 忌なれば申分なから もあり半声会主催松 華吟社 賛助の下に 速決定致し候次第 来る十月十二日(芭 不悪御了承被下御

か十一時の予定 一、會費 三十銭 茶菓 素餐(サルソバ) 一、記念集(別紙中 部芸術臨時号を充つ 一部十銭の見込) 右の如く内定致し 候間 萬障御繰合 御臨席の上追悼談特

に御願申上候 乱筆 失礼上取 敢御 御願間迄 如斯に御座候 次にご般御配慮仰 候伊那俳人集 午延 引一部御送付申上候 間御評被下度御願 申上候 十月七日 松華吟社



2017. 4. 5 張原北原家で

小林郊人 忙な時期にあつた。北原痴山先生 侍史 一方、明治二十四年生まれの小林郊人はこの年四十一歳で句集発刊や『伊那の俳人』『八巢蕉雨』

以上が伺いの全文である。明治元年生まれの痴山は、明治三十年に正岡子規の提唱した新しい俳句の流れの飯田松声会―先記文中半声会と記しているがこれら会名については説明を要するが省略する―を起した一人であり、この頃は六十歳を越えていたが公職や諸会の会長・代表にも推され、当地の第一人者として活躍の多

(飯田市龍江)